

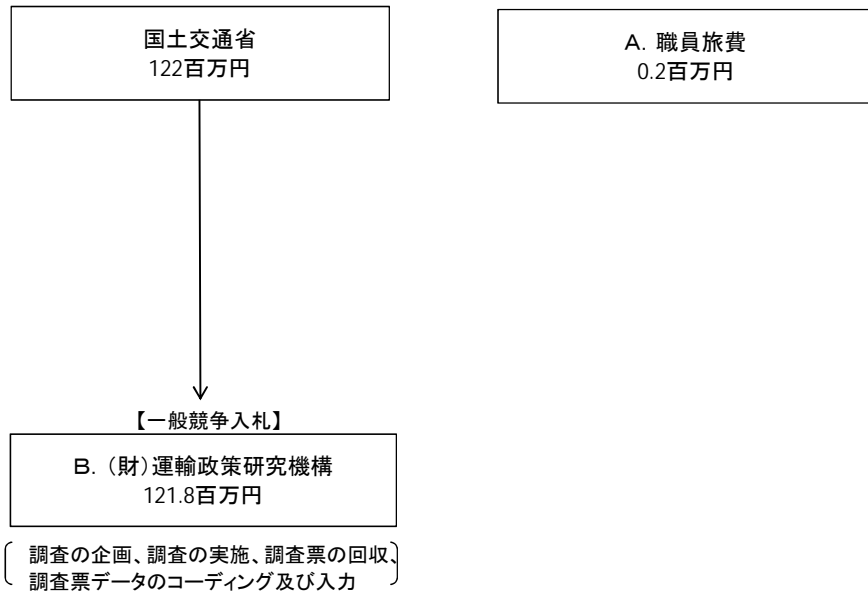
平成23年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	大都市交通センサス実施経費		担当部局	総合政策局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	昭和35年度～		担当課室	交通計画課		課長 山口 勝弘		
会計区分	一般会計		施策名	36 市場・産業関係の統計調査の整備・活用を図る				
根拠法令 (具体的な条項も記載)			関係する計画、通知等					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	大都市交通センサスは、昭和35年より5年毎に首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏における大量公共交通機関の利用実態を把握するために実施している調査であり、広域交通圏における公共交通ネットワークの利便性の向上、交通サービスの改善等の交通政策の検討に資する基礎資料とすることを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	大都市交通センサスは、3年間にわたる調査を予定しており、平成22年度は実査、平成23年度は集計・解析、平成24年度は分析の深度化等を行う。具体的には、平成22年度は調査の企画、調査の準備、調査の実施、調査票のコーディング及び入力を行った。 調査の具体的方法については、三大都市圏の対象駅・バスターミナルにおいて、調査票を配布し、郵送及びインターネットで調査票を回収する利用者調査を実施。一方、交通事業者に対しては、定期券発売実績調査、OD調査、輸送サービス実態調査を実施し、その他、駅での乗換施設の実態及び、鉄道・バス間の乗換施設について、乗換施設実態調査を実施。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求		
	予算の状況	当初予算	—	—	122	129	76	
		補正予算	—	—	0	0		
		繰越し等	—	—	0	0		
		計	—	—	122	129	76	
	執行額		—	—	122			
執行率(%)		—	—	100				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (22年度)	
	①統計の情報提供量(収録ファイル数) ②ホームページのアクセス件数(HPアクセス件数)		成果実績 達成度	件 %	①約6,400 ②約487,000 ①約70% ②約91%	①約7,000 ②約513,000 ①約76% ②約96%	①約10,000 ②約593,000 ①約109% ②約111%	①約9,200 ②約535,000
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込	
	鉄道利用者調査票及び バス・路面電車利用者調査票回収数		活動実績 (当初見込み)	枚	— —	— —	371,330 (320,000)	— (—)
単位当たりコスト	329 (円/枚)		算出根拠	枚:活動実績に記載した調査票回収数 371,330枚 円:統計調査費 122百万円(調査の企画・広報、調査票印刷・回収・入力費用。ただし、その他調査項目の費用も含む)				
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	諸謝金	0.1百万円	0.1百万円	本調査は5年周期の調査であり、平成22～23年度において回収・整理したデータについて、平成24年度は詳細な集計・分析を実施するための所要額を計上したことによる統計調査費の減。				
	職員旅費	0.2百万円	0.4百万円					
	統計調査費	129百万円	76百万円					
計	129百万円	76百万円						

※計数は、原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	平成22年に実施した「第11回大都市交通センサス」の調査結果については、平成23年度末に公表予定。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	○	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>鉄道利用者調査のインターネットによる回答数は、前回調査(平成17年度)と比較して約3倍に増加し、回収及び入力コストの低減に貢献しているものの、全体として回収率が向上したことにより、郵送回収分の枚数も増加しているため、今後は更なるインターネット回答の利用促進を図り、コスト低減に努める。</p> <p>また、効果的な広報等により十分な周知を行い、回収率の向上を図り、調査票の配布枚数の減少を図るといったコスト削減努力の検討を進める。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
抜本的改善①、⑤	<p>本事業を国が実施するか否かなど、実施主体のあり方も含めた検討を行うべき。</p> <p>インターネット回答の利用促進等によるコスト低減に努めるとともに、調査対象や調査手法等の見直しを検討し、さらなるコスト削減努力を図るべき。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
<p>本調査は5年周期の調査であり、平成24年度については、調査結果の分析を実施。</p> <p>調査手法の見直しに関しては、現行の調査票配布方式から出来る限りインターネットを活用した調査手法について検討する。</p>			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する)(単
位:百万円)

A.(財)運輸政策研究機構			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	調査員、入力作業員、電話オペレーター 人件費	60.8			
	技師	19.2			
物件費	調査票・ポスター印刷、発送、回収費	24.9			
外部委託	(株)ライテック、社会システム(株) WEB回答システム作成、企画補助	7.0			
その他	委員会運営費	4.1			
	消費税	5.8			
計		121.8	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について
 記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)運輸政策研究機構	調査の企画・実施、調査票の回収、調査データのコーディング・入力	121.8	2	100%
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					